

PRAEVIDENTIA DAILY (11月17日)

昨日までの世界：米消費堅調 VS インフレ期待低下、欧州景気は大丈夫だった…

先週金曜は、ドルが対円、ポンドでは上昇した一方で、ユーロ、豪ドル、NZドル、カナダドルなどは対米ドルで上昇（米ドル安）となるなど、米経済指標への反応が中心だったもののドルの動きはまちまちだった。ドル/円は、アジア時間から欧州時間にかけて、特段の追加材料はなかったが消費増税延期期待を背景とした日経平均上昇を睨みドル高円安基調が続き、115円台後半から116円台半ばへじり高となった。その後、米経済指標で小売売上高が総合前月比+0.3%、コア（除く自動車・ガソリン・建築資材）+0.5%と全体的に市場予想を上回ったことから、一時116.82円へ続伸した。前月予想外のマイナスとなり世界金融市場の動揺のきっかけの一つとなった前月分は結局プラスに上方修正された。更に、その後発表されたミシガン大消費者信頼感も89.4と前月および市場予想を大きく上回った。

もっとも、小売売上高と同時に発表されていた米輸入物価が前月比-1.3%と市場予想は上回ったが、前年比も-1.8%とマイナス幅が拡大、ミシガン大消費者信頼感調査にあるインフレ期待も1年後、5年後共に2.6%と前月（各々+2.9%、+2.8%）から低下したこともあって、今後インフレ率が低下するリスクが意識されると、米中長期債利回りが反落したことから、ドル/円も116円割れ手前まで反落するなど、一日で往復2年程度動く振れの大きい相場展開が続いている。

ユーロ/ドル、豪ドル/米ドル、NZドル/米ドルは、小売売上高発表までの下落（米ドル高）よりも、その後の反発（米ドル反落）の方が大きく、前日比では上昇して引けた。ユーロ圏3QGDP速報値は、フランス、イタリアの予想比上振れもあってユーロ圏分は前期比+0.2%と市場予想を上回り、ゼロ成長から脱したことも下支え要因だったが発表後の市場の反応はその後の米経済指標を巡る上下変動に比べると限定的だった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.5	+0.01	-0.01	-0.02	-0.00	-0.03	-0.02	+0.0	+0.6	+1.9
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.4	+0.01	-0.00	-0.01	+0.02	-0.01	-0.03	+0.2	+0.0	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.3	-0.05	-0.06	-0.01	-0.04	-0.06	-0.03	+0.3	+0.0	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.3	-0.00	-0.01	-0.01	+0.01	-0.02	-0.03	+0.0	-0.3	+0.8
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.3	-0.01	-0.02	-0.01	-0.00	-0.03	-0.03	+0.0	-0.3	+0.8
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.7	-0.01	-0.01	+0.00	-0.02	-0.03	-0.01	+0.0	+2.4	+0.8

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデントティア・ストラテジー

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+1.5	+0.03	+0.01	-0.02	+0.00	+0.01	+0.01	+0.4	+3.6	-7.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.6	+0.00	+0.01	+0.01	-0.04	-0.03	+0.01	+0.0	+0.4	+0.01
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+1.3	-0.00	+0.01	+0.01	-0.03	-0.02	+0.01	+0.4	+2.5	-1.4
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+2.0	+0.01	+0.02	+0.01	+0.02	+0.03	+0.01	+0.4	+2.5	-1.4
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-1.3	-0.10	-0.09	+0.01	-0.10	-0.10	+0.01	+1.3	+0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.3	+0.02	+0.01	-0.01	+0.00	+0.01	+0.01	+0.4	-3.6	-1.4

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデントティア・ストラテジー

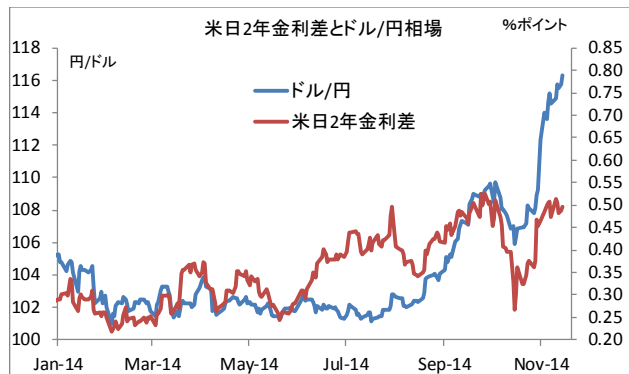
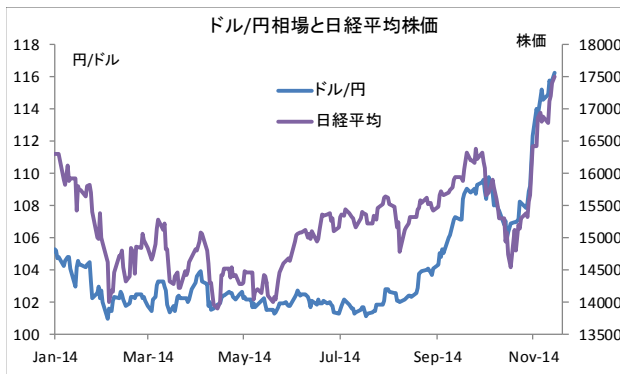
きょうの高慢な偏見：増税先送りを受けた株高・円安はどこまで？

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ3Q 小売売上高・前期比	6:45	+1.5%	+0.9%	
本邦 3Q GDP 速報値・前期比年率	8:50	-6.8%	+2.1%	
米 11 月 NY 連銀製造業景況指数	22:30	6.2	11.0	
米 10 月 鉱工業生産・前月比	23:15	+1.0%	+0.2%	
同設備稼働率		79.3%	79.3%	
Evans シカゴ連銀総裁発言	0:00			ハト派、来年は投票権あり
Kocharlakota ミネアポリス連銀総裁発言	3:30			ハト派、来年は投票権なし

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は、ドル/円で本邦 3Q GDP の弱さと米経済指標の回復継続を確認し、ドル高円安トレンドが継続し 117 円乗せを試す可能性が高そうだ。日本では、本日の GDP が弱く、消費増税は 18 日の点検会合結果も踏まえて、18 日中にも (2017 年 4 月までの) 消費増税先送りと衆院解散・総選挙が発表される可能性が高まっているようだ。増税先送りは現在の景気動向からみて必ずしも不適切とは言えず、週末の G20 首脳会合でも他国から消費増税先送りを牽制された訳でもなく、株価下支え要因となっていることから「日本売り」材料とは必ずしも言えず、むしろドル/円に対しては株高との連動性の面から押し上げ材料とみていだろう (下図を参照)。12 月 14 日投開票とみられる総選挙も、一部首長選などで自民党敗北があるものの (滋賀、沖縄など)、与党自民党の勝利に終われば、安定政権が維持され株価の不安定要素とはならなそう。なお、週末 16 日の沖縄県知事選で、米軍普天間基地の辺野古移設に反対の翁長候補が現職仲井真候補に勝ち当選したことにより、移設手続の遅延リスク・日米関係悪化リスクと意識される可能性はあるが、増税先送りや解散総選挙といった材料の方が重要度が大きいので、市場の反応は限定的だろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者 (投資助言・代理業) 関東財務局長 (金商) 第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641